

【評価実施概要】

事業所番号	2070501057		
法人名	宗教法人天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	長野県飯田市羽場権現1611-2 (電 話) 050-5561-1592		
評価機関名	特定非営利活動法人アイネットSAKUMA		
所在地	長野県松本市大字芳川小屋508番地3		
訪問調査日	2008/7/7	評価確定日	2008/7/29

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 0 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 500 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護1	3名	要介護2	1名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.1 歳	最低 85 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会病院、波多野医院、JAみなみ信州歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯田市の西部にある風越山の麓に位置し周囲に松川が流れ果樹園が広がる静かな環境にグループホームはある。設置主体である宗教法人の教えである「陽気ぐらし」を理念にされ、アットホームさを大切にし入居者の方々はゆったりと過されている。隣接して介護支援センターいこいの里があり、その支援センターでホーム入居者で終末期に入られた方を介護されている。グループホームではボランティアの方々が手芸・絵手紙を入居者に教え、入居者の作品もリビングに展示されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回での評価で理念の掲示・一般的な方にも解り易い表現をと、改善課題とされていたが、改善はされていなかった。管理者が変わったばかりであり、今後努力されて行くと言う事であった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホームに携わる職員は、評価を謙虚に受け止め、良いところはより良く向上させ、不備なところは共に研究及び改善を図り、今、何をしなければならないのかお互いに共通な考えを見出し、より良いホーム作りの実現に努めている
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を開催し、情報交換及び事業計画の推進、より良いサービスの実現に向けて努力している。市行政機関が主催する事業者連絡会に参加し、事業間の交流を図り、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームに少しでも来所頂く為に振り込み等されず、面会する機会にお持ちいただくようにされ、その折に意見・苦情など聴取できる様に工夫されている。家族からは感謝の言葉が多く寄せられた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議等において、自治会及び老人会等の組織を通じ情報交換を行い、行事への参加・ボランティアの受入、近隣施設との交流を図り、気軽に密着した交流が図られるよう地域に開かれた運営に努力されている。
重点項目	隣接する果樹園所有者等と気軽に交流されている。

## 2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「陽気ぐらし」は天理教の教えであるという。自分中心の心づかいや行いを慎み、良いところを伸ばし、足りないところを補い合う。共に生きる事が陽気ぐらしだと日々実践されている。		すばらしい理念を来所される方々にも解りやすい形で提示される事を望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を中心に全職員あげて理念に沿い、地域組織と相成って、入居者の生活圏向上に努力されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等において、自治会及び老人会等の組織を通じ情報交換を行い、行事への参加・ボランティアの受入、近隣施設との交流を図り、気軽に密着した交流が図られるよう地域に開かれた運営に努力されている。		ボランティアや地域住民の協力を得ながら、地域の諸行事に大いに参加されることを望みます
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームに携わる職員は、評価を謙虚に受け止め、良いところはより良く向上させ、不備なところは共に研究及び改善を図り、今、何をしなければならぬのかお互いに共通な考えを見出し、より良いホーム作りの実現に努めている。		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、情報交換及び事業計画の推進、より良いサービスの実現に向けて努力している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市行政機関が主催する事業者連絡会に参加し、共働的な行動を図り、QOLの向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、入居者の生活状況をお便りとして報告すると共に、家族との面談により状況報告をしている。月1回は入居者の様子を実際に見て貰う工夫をされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの運営や入居者の生活状態について家族からの要望を聴取するシステムは整えてあるが、今まで苦情等受けたことがない。</p>		<p>第三者委員または同様な組織を儲け、入居者や家族とコミュニケーションを図りながら、苦情等の探索が出来る体制づくりを望みます</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動等がある時は、入居者の理解を求めると同時に、段階的な支援方法により、入居者の心の動揺を防ぐ配慮をされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員をあらゆる研修会への派遣を推進してる。介護実践者の研修等常勤・非常勤に限らず機会を設けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員は、グループホームの地域連絡協議会等に参加し、同業者同士、訪問等を通じ交流や研修会を行い、入居者のサービス向上に繋げている。長野県広域での交流は少ない。</p>		<p>近隣のグループホーム等の交流はされているが、広域での交流を設けられる事を望みます。長野県の最南部にホームはあり、広域での交流が難しいと思われませんが、初心にかえる意味でも、そのような機会をもたれる事も重要と考えます。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が集団生活のなかで不安無く生活を開始できるよう、家族と相談しながら、今迄の生活状態を考慮し、雰囲気環境改善を図り慣らし生活を取り入れており、除々ではあるが早い機会に仲間作りが出来るよう対処している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念である『陽気ぐらし』の実現を目指すため、職員と入居者が助け合い、支えあい、認め合い家庭的な生活を楽しんでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中から、本人の生活歴把握や思いを大切にしその意向をくみ取り、職員みんなで計画検討し支援方針を共有している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者が歩んで来られた生活歴から、より良く暮らすための介護計画を家族の意見要望等も聞き入れながら、管理者を主体にスタッフみんなで検討している</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画の見直しを行い、入居者の生活状況変化に順応し、職員、家族共に検討し、サービスの見直しを行い、柔軟な対応をしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の都合も考慮し、定期的な通院、個人の要求する外出等に職員が同行し支援している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>今迄のかかりつけ医師からの情報提供を受け、月に一回、ホームの嘱託医の診察を受け診察だけではなく相談や適切な支援指示も得ている。また、入居者や家族の希望や状況に応じた医療が受けられる体制も整えている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者及び家族には、このホームで対応できる・できないことを入所時に説明し理解して頂き、入居者同士で共同生活が出来る入居者の生活の場と理解して貰っている。受け入れ困難者を隣接している支援センターいこいの里で終末期の受け入れている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者ひとり一人を尊重し、声掛けから支援内容まで一貫してプライバシーの保護に気を配り支援している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>以前の生活状況を尊重し、ホームでは利用者の健康や安全に気配りし、生き甲斐のある充実した一日が過ごせるよう支援している。</p>		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食のほか、季節の山菜やホームで採れた食材を使い、各人の好みに応じ、季節感にあふれる食べ易い食事に配慮している 入居者の能力にあわせてお手伝いして貰っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回と入浴日は決まっているが、それには限らず、汗ばんだ時には自由に入浴ができる。		入浴は洗淨的（身体を洗い清める）なもの、希望者は毎日でも入浴できる体制づくりを望みます。夕方入浴なども状況等許せば対応する事も必要かと思えます。夜間時の徘徊等の軽減につうじるかと思えます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者各人が日常生活のほか、散歩や手芸（絵手紙作り・絵描き・押し花等）で楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換が図られるよう介護職員の見守りの中、散歩や花見などの外出をされている。広い敷地を活用され、四季の移り変わりを楽しんで散歩をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中生活上は鍵をかけることは無いが、入居者の状況によっては安全上鍵をかけることもある。玄関には鈴を付け入居者が外に出たことが確認できる様配慮されている。庭に飼っている犬が突発的な外出を教える事もある。		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練を体験することによって入居者個人に避難方法を知ってもらうため、自治会長さんを招き日中訓練を行っている。</p>		<p>災害は何時起こるかわからない、そのためにも夜間訓練を行うことを望みます。自治会住民、消防関係者、行政関係者等の協力を得て行い、入居者とのコミュニケーションを図ると共にホームの形態を知ってもらうことも必要と思います。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の体調に留意し、食事行為や残食量を常時観察し栄養面を考慮している。その時々利用者に聞き取りボリュームのある入居者の好みに応じたメニューを提供している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は食事や趣味活動等全てが一箇所で行える様になっており、入居者が自由に過ごせるよう工夫されている。壁には入居者の自作品を掲示している。</p> <p>浴室やトイレ等独特な臭みなど無く快適な生活空間である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今迄家庭で使い慣れた家具や好みの品を持ち込み配置し、快適で継続的な生活空間を作り上げている。</p>		

 は、重点項目。